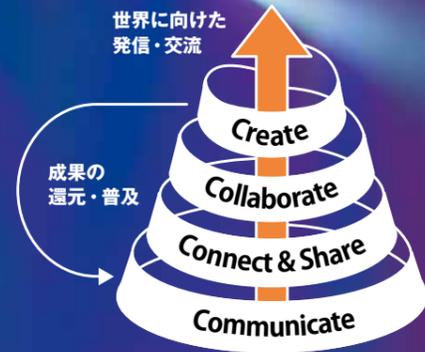


# アジアセンター

2013年12月に東京で開催された日・ASEAN 特別首脳会議において、日本政府は、ASEAN を中心とするアジアとの文化交流を進めるための新しいアジア文化交流政策「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト〜知り合うアジア〜」を表明しました。このプロジェクトを担うため、国際交流基金は2014年4月、新たな部署としてアジアセンターを設けました。東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、Communicate（交流）、Connect & Share（共有）、Collaborate（協働）、Create（創造）の4つの「C」をキーワードに、日本とアジア諸国との文化交流を促進、強化する様々な事業を実施していきます。



ダンス・ダンス・アジア バンコク公演

## "日本語パートナーズ" 派遣事業

"日本語パートナーズ" 派遣事業は、2014年から2020年までの7年間で3,000人以上の日本人をASEAN 諸国の教育現場に派遣し、現地の日本語教師と学習者のパートナーとして、授業の補佐や教室内外での日本語や日本文化の紹介活動を通じて各国の日本語教育支援を行うと同時に、派遣者自身も現地の言語や文化について学び、相互理解を深めることで、日本とASEAN 諸国との交流の裾野拡大を図る事業です。

事業初年度となる2014年度は、537人の応募者の中から、タイ(29人)、フィリピン(5人)、インドネシア(48人)、ベトナム(10人)及びマレーシア(8人)に計100人の日本語パートナーズを、9月から順次派遣し、派遣第一陣は安倍総理への表敬訪問を行いました。

本事業には、20歳から69歳までの幅広い年代が参加しており、年齢や経歴の異なる日本語パートナーズが、各々の方法で現地で活動しました。派遣先では、現地の日本語教師と相談しながら2人1組でチーム・ティーチングに組み、また各人の趣味や特技を活かしなが

ら日本文化を紹介しました。派遣された100人の日本語パートナーズは、任地到着後、のべ38,184名の生徒に対する日本語教育に従事し、派遣先校や多くの現地日本語教師から「生徒の学習意欲が向上した」、「日本語を勉強したい生徒が増加した」というコメントが寄せられました。更に、日本語クラスや日本語学習者の増加、日本文化紹介イベントの増加といった効果も表れています。

2015年3月には、任期を終えたタイ1期29人、フィリピン1期の2人が帰国しました。帰国した日本語パートナーズからは、派遣された国の文化と現地の人々への理解が深まったこともあり、「派遣前と派遣後では、人生観が180度変わった」、「現地の方々と同じフィールドで文化を学ぶ経験は貴重な経験だった」、「今後、任地で知り合った方々との交流を続けたい」等のコメントがありました。



日本語パートナーズの授業風景



防災教育に取り組むHANDs! プロジェクト

## 芸術文化の双方向交流事業

### アジア・市民交流事業

日本とアジア諸国の交流の裾野を広げ、アジア域内の人々の相互理解や友好親善を促進するため、市民レベル・地域レベルのグループ交流事業を実施・支援します。

#### ■「HANDs! – Hope and Dreams – Project!」

インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、インド、日本から選抜された若手リーダーが、防災教育に取り組むグループ交流・研修事業。

実際に各国の被災地を視察し、そこで得た知見を活かして、防災教育のアクション・プランを作成しました。自然災害が多発し、防災に対する意識が共通の課題となっているアジアにおいて、本事業は開始当初より高い関心を集め、各国5人の参加枠に対して、インドネシアでは555人、フィリピンでは159人の応募がありました。実際の研修プログラムにおいても、アートやゲームなど創造的な要素を取り入れた新しい防災教育への取り組みは、各国のメディアやSNSを通じて注目を集めています。2015年度は、アクション・プランのフォローアップを行い、かつ新たに募集したメンバーで事業を展開します。

### アジア・ネットワーク形成支援

アジアの文化諸分野における専門家の人材育成や交流促進のため、①アジア諸国の文化人の招へい、②長・短期／派遣・招へいフェローシップ、③グループ派遣・招へい・巡回等による人的交流を実施します。

2014年度は、「アジア・文化人招へい」事業を創設し、7人の招へいを決定し、ラオス初の民放テレビ局創設者を皮切りに招へいを開始しました。また、人材育成とアジア域内の交流の活性化及び交流基盤の形成を促進するため、日本とASEAN 諸国の専門家に、自国外で調査や研究の機会を提供する「アジア・フェローシップ」事業を立ち上げ、公募を開始しました。

### アジア・文化創造協働事業

アジアにおいて、文化芸術、スポーツ、知的交流分野の専門家・専門機関が取り組む共同制作や共同研究等の協働事業及びその成果発信事業を実施・支援する事業です。継続的に事業を進展させ、新しい価値やムーブメントの創出を目指します。

#### ■東京国際映画祭との連携交流事業

東京国際映画祭において、アジア映画の紹介、映画人の交流促進、日本を含むアジアの映画監督によるオムニバス作品の制作、新鋭監督への特別賞の授賞等、多面的な交流事業を実施し、相互理解を深め、アジアの才能を世界に発信していきます。

2014年度は、映画祭全体のアジア作品の拡充と合わせて、アジアの現在を鋭く切り取る「CROSSCUT ASIA」部門を新設し、より



国際交流基金アジアセンター特別賞 授与式 ©2014 TIFF

多くの人々がアジア映画を鑑賞する機会を提供しました。また、上映作品の監督や出演者等29人、映画関係者、映画ジャーナリスト等59人をアジア各国から招へいし、アジア映画界の裾野の広い交流とネットワークの強化を図りました。「アジアの未来」部門においては、文化の違いを超え、国際的な活躍が期待される新鋭監督に贈る「国際交流基金アジアセンター特別賞」を、『遺されたフィルム』を監督したカンボジアのト・クォーリーカー監督に授与しました。

#### ■ダンス・ダンス・アジア

ストリートダンスをキーワードに活動するダンスカンパニー／ダンサーの、アジア域内の交流と共同制作を支援するプロジェクト「DANCE DANCE ASIA -Crossing the Movements-」を開始しました。

2014年度は、フィリピン、マレーシア、ベトナム、タイにおいて、日本の代表的カンパニーによる公演を実施し、総計5,711人の参加を得たほか、各国において総計1,240人に対するワークショップを開催し、今後の交流を進展させるための交流基盤づくりを行いました。

#### ■JFA × Jリーグ連携サッカー交流

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、言語や文化の差異を超えて共感と連帯を生み出すスポーツの力により、アジアにおける交流と共感の拡大を図るべく、庶民レベルでも人気のあるサッカーを通じた交流を、日本サッカー協会(JFA)とJリーグとの連携事業として開始しました。

2014年度は、相互理解と交流の促進、サッカー文化を支える様々な担い手の育成、そして今後の交流拡大に向けた基盤づくりを目的として、代表ユースチーム(ブルネイ、フィリピン、カンボジア)や、ASEAN 各国サッカーリーグの報道関係者、日本国内大会へのASEAN チームの招へいに加えて、指導者養成講習会(タイ)やサッカー教室(タイ)も実施しました。

#### ■国際舞台芸術ミーティング (TPAM) in 横浜

同時代的舞台芸術に取り組む専門家同士が、互いに連携しながら情報交換、相互学習、議論、交流できる国際的なプラットフォームであるTPAM。20年目を迎えた2014年度は、アジアセンターが主催者に加わり、2020年までに日本とアジア諸国の舞台芸術における交流と協働を深め、ネットワークを強化していくことを目指して、初めてアジアを中心としたプログラムで開催しました。

アジアセンターはアジア諸国を中心に、例年の倍以上となる約50人の舞台芸術の関係者(劇場やフェスティバルのディレクター、プログラマー、プレゼンター等)を独自にTPAMに招へいしました。さらに今後の日本とアジアの協働のためのプラットフォームとして、芸術祭の調査や舞台芸術家へのインタビュー特集も実施しました。TPAMでの出会いがきっかけとなった企画が、既に様々な形で実現しています。



サッカー交流事業 (横浜 FC)